

令和7年度

全国学力学習状況調査における調査結果について

生駒市立生駒東小学校

今年度も全国学力学習状況調査が実施されました。以下に本校の調査結果の概要を示します。

なお、この調査は学力の全てを把握するものではなく、特定の一部を示しているものです。調査結果から分かった成果と課題を、今後の教育活動に生かしていきたいと考えます。

【全体】

学力調査については、本校は、国語では生駒市の平均と同じになり、奈良県、全国の平均を上回る結果となりました。本校の児童の国語、算数、理科の学力については、一定水準、身につけていると考えられます。しかしながら、課題とみられる領域もあり、今後の教育活動で改善を図っていく必要があります。

【国語】

「国語の勉強は好きですか」という質問に対して、本校は72.6%の児童が肯定的に回答しており、全国、奈良県の回答率を上回っています。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては91.6%の児童が肯定的に回答しており、多くの児童が国語科の学習を肯定的に捉え、その重要性についてもよく理解していることがわかります。そのため、国語科の学習のありようについての質問に対しても、多くの児童が肯定的に回答しています。「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」については、85.7%の児童が、「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどとして必要な情報を見付けていますか」については、81%の児童が肯定的に回答しています。これらは、いずれも奈良県や全国の回答率を上回っており、国語科の学習において、その目的をよく理解して臨んでいることがわかります。

また、国語科の学習内容の理解についての質問である「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しても89.3%の児童が肯定的に回答し、全国や奈良県の回答率を上回りました。

調査問題の集計結果を見てみると、奈良県や全国よりも正答率が上回った問題が多く、正答率が全国平均を下回った問題は3問で、「話すこと・聞くこと」の理解をみる問題と「我が国の言語文化に関する事項」の理解をみる問題と、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の理解をみる問題でした。「話すこと・聞くこと」の理解を図る問題は、「思考 判断 表現」の観点で、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」問題でした。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の理解をみる問題は、「【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(このみ)」ひらがなを漢字に直すことができるかどうかをみる問題でした。「我が国の言語文化に関する事項」の理解をみる問題は、世代による言葉の違いがあることを理解できるかを読み取る問題でした。本校の児童は、提示選択肢から問題の内容を理解し、選択肢のそれぞれの意味の違いを読み取ることに弱さがみられました。これらのことから、児童に表現の違いに注目して文章を読み取る力を育成していきたいと考えます。

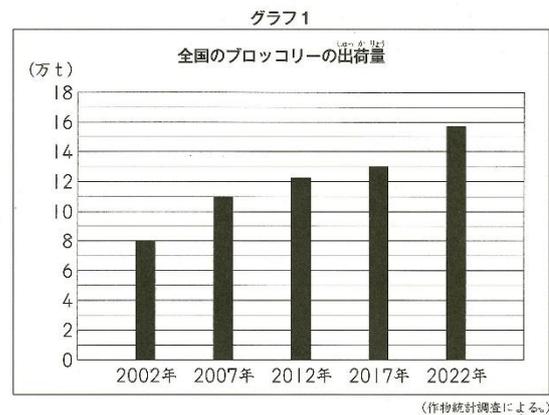
【算数】

「算数の勉強は好きですか」という質問に対して、本校は66.7%の児童が肯定的に回答しており、全国の回答率を約9ポイント、奈良県の回答率を約10ポイント上回っています。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては、92.9%の児童が肯定的に回答しており、多くの児童が算数科の学習を肯定的に捉え、その重要性についてもよく理解していることがわかります。そのため、算数科の学習のありようについての質問に対しても、多くの児童が肯定的に回

答し、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」という質問には90.5%の児童が肯定的に回答しており、奈良県、全国より7ポイント程度高くなっています。

調査問題の集計結果を見てみると、ほとんどの問題で奈良県や全国よりも正答率が上回っており、正答率が奈良県、全国平均を下回った問題は1問で【数と計算】【データの活用】領域の「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうか」の理解をみる問題でした。また奈良県平均を下回った問題は1問で【図形】領域の「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」問題でした。全国平均を下回った問題は2問で【データの活用】「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題と【数と計算】【測定】【変化と関係】【データの活用】領域の「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題でした。いずれの問題も1ポイント弱下回っていました。全体的には、奈良県、全国平均を上回っている問題が複数あり、よく理解している様子が見てとれます。

【数と計算】【データの活用】領域の「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうか」の理解をみる問題では、棒グラフの縦軸と横軸をもとに、それぞれの年の出荷量を判断し、2022年の出荷量が2002年の出荷量を元にして何倍になっているかをみる問題でした。本校の児童の誤答類型を見てみると、元にする年を2022年にしてしまったものや、縦軸の2002年の出荷量を答えてしまった児童が多くいました。【データの活用】領域の「都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」問題では、約9割の児童が出荷量が増えたと正確に答えることができましたが、そう考えた理由の「どちらのグラフのどこに注目したか」を表すことができない児童が一定数いました。【図形】領域の「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」問題では、方眼にかいてある角の大きさをくらべる問題でした。方眼に角が描かれているだけで、それぞれの角の大きさについては、記載がなかったためか、比べることができないと回答した児童が一定数いました。算数科の学習では、問題の内容を正しく読み取り、あたえられた条件の中で、理論的に考えを進めて判断していくことが大切です。今後の指導においては、ある事柄が成り立つ理由や判断の理由を明確にしなが、理論的に考え、結論を出せるように指導していきたいと思ひます。



グラフ1からわかることを、次のようにまとめます。

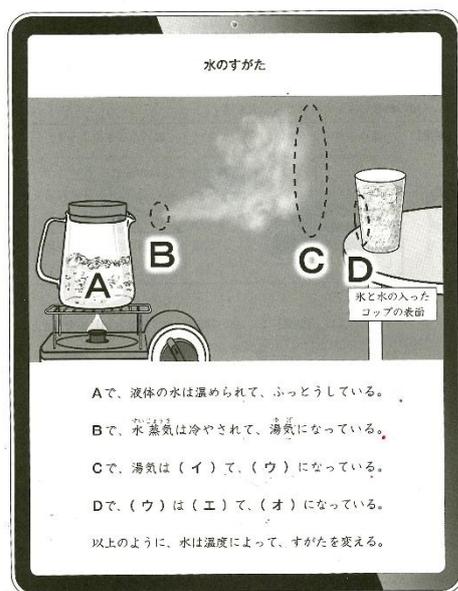
2022年の全国のブロッコリーの出荷量は、2002年の出荷量の約 倍になっています。

上の○に入る数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.5
- 2 2
- 3 8
- 4 16

【理科】

「理科の勉強は好きですか」という質問に対して、84.5%の児童が肯定的に回答しており、奈良県の回答率を約7ポイント全国平均を約4ポイント上回っており、また「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思います



(2) 左の図の（イ）から（オ）の中にあてはまるものを、下の 1 から 12 の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

（イ）
1 蒸発し
2 ふっとうし
3 温められ

（ウ）
4 水蒸気
5 液体の水
6 氷

（エ）
7 蒸発し
8 温められ
9 冷やされ

（オ）
10 水蒸気
11 液体の水
12 氷

か」という質問や「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」という質問に対しても肯定的に回答している児童が奈良県、全国平均を上回っています。多くの児童が理科の学習を肯定的に捉え、その重要性についてもよく理解していることがわかります。

調査問題の集計結果を見てみると、ほとんどの問題で奈良県や全国よりも正答率が上回っていました。奈良県、全国平均を10%以上上回っている問題が複数あり、よく理解している様子がみてとれます。正答率が奈良県、全国平均を下回った問題は1問で【「粒子」を柱とする領域】【「地球」を柱とする領域】の「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解しているかどうかをみる」問題でした。この問題については、奈良県を8ポイント、全国平均を11ポイント下回っていました。

【「粒子」を柱とする領域】【「地球」を柱とする領域】の「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ」問題では、言葉の意味を理解して文章に合わせて選ぶことが正しくできていなかった児童が多くいました。理科の学習において概念的に理解するためには、用語の意味を正しく理解して使うことが求められます。これからもこの点に留意して、指導していきたいと思います。

【児童質問】

肯定的な回答が、奈良県、全国の回答率よりも上回っていたのは、48項目でした。その中でも「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対して、週3回以上使用したという回答率91.7%で、奈良県より27ポイント、全国よりも20ポイント以上、上回っており、非常に高い達成率でした。タブレットの活用に関しても「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」「PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」「PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成す

ることができると思いますか」「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」などの質問において「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童の回答率が、奈良県、全国に比べて多くなっています。これは、本校の児童がICT機器を文房具として捉え、積極的に利用していると言えます。今後、探究的な学習や個別最適な学びにおいて、さらに効果的な利用を進めていきたいと考えます。

それに対して、肯定的な回答が、奈良県、全国のいずれよりもの回答率よりも下回っていたのは、次の13項目でした。

- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」
- ・「友達関係に満足していますか」
- ・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」
- ・「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)」
- ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる」
- ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」
- ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる」
- ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」
- ・「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」
- ・「算数の授業の内容はよく分かりますか」
- ・「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」

そのうち8項目は学習に関するものでした。本校の児童は、学力テスト結果はとても高いですが、学習に対する意識や自己肯定感では、肯定的に捉えにくい状況であることが分かります。教科の学習内容の理解についての意識を変えるためには、授業の在り方について改善を図る必要があると思われます。学習者である児童が学びの主役となり、主体的に学習を進めていくことで、学ぶ楽しさを実感させていきたいと考えます。

奈良県の回答率は上回ったものの、全国の回答率を下回ったものは、次の10項目でした。

- ・「朝食を毎日食べていますか」

- ・「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」
- ・「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか」
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」
- ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」
- ・「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」
- ・「理科の勉強は得意ですか」
- ・「理科の授業の内容はよく分かりますか」
- ・「自然の中や日常生活、理科の授業において理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」

「学校に行くのは楽しいと思いますか」では僅差でしたが、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、3ポイント「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」では、7ポイント「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」では、1.5ポイント「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」では、3ポイント「算数の授業の内容はよく分かりますか」では、4ポイントほど奈良県、全国平均と比べて差がありました。この結果を私たち教職員は、真摯に受け止め、改善に努めていかなければならないと思います。

肯定的な回答率が95%以上だった項目は5項目で、そのうち教科学習に対する意識についての項目が2項目でした。それ以外は、「人が困っているときは進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の3項目でした。

子どもたちのこの思いに応える教育活動の推進を今後も図っていきたいと考えます。